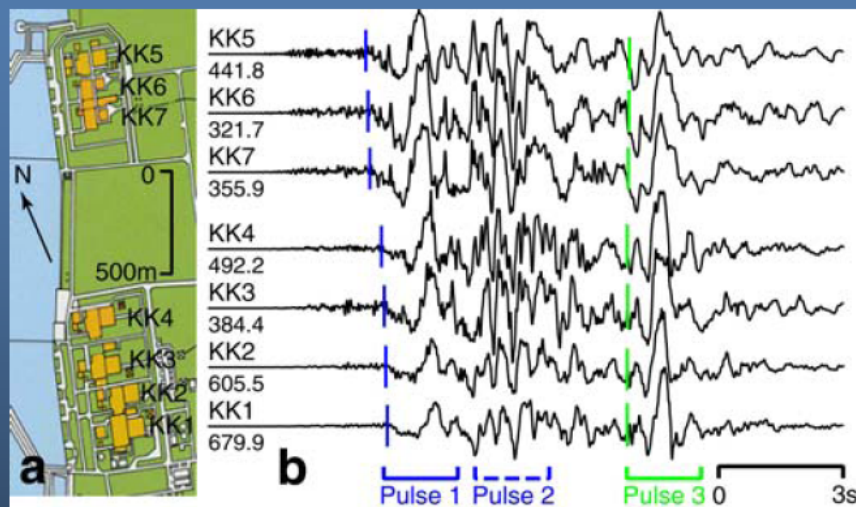


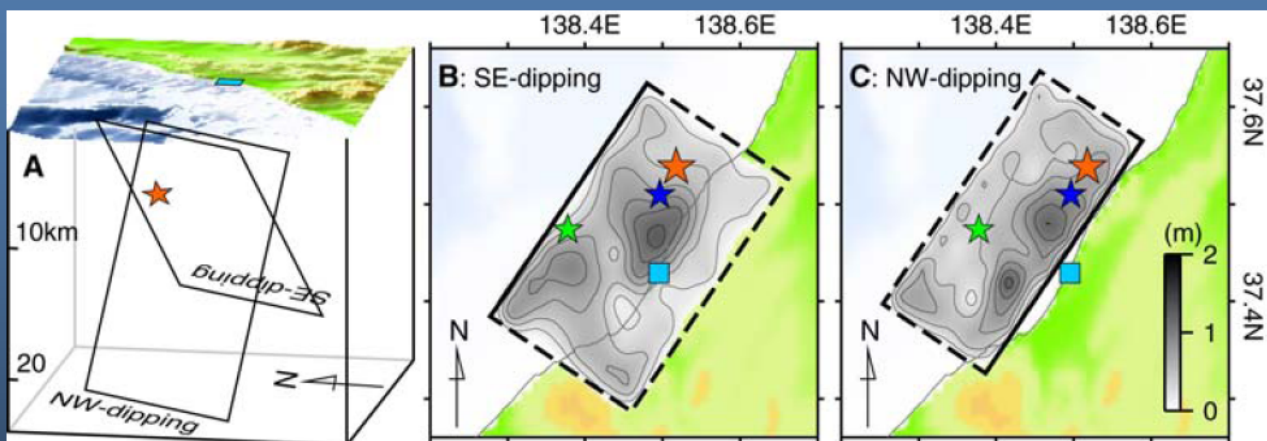
アスペリティ破壊開始点の連係震源決定 (1)



柏崎刈羽原発の7原子炉の基礎マット上で観測された強震記録のレコードセクションを見ると、8頁の特性化震源モデルの3アスペリティに相当する3パルスが特定でき、アスペリティの位置によりパルスの到着時刻が微妙に異なっていることがわかる。ただし、信頼できる時計を持たないので、P波初動とパルス1、P波初動とパルス3の時間差を読み取って、震源(全体の破壊開始点)に対するアスペリティ1, 3の破壊開始点の連係震源決定を行った。

11

アスペリティ破壊開始点の連係震源決定 (3)



パルス1に対応するアスペリティ1の破壊開始点は★, パルス3に対応するアスペリティ3の破壊開始点は★の位置に震源決定された。★の近くには南東傾斜すべり分布にも北西傾斜すべり分布にもすべりの大きな領域があるが、★の近くには南東傾斜ならすべりの大きな領域があるが、北西傾斜ではすべりの大きな領域はない。

→ アスペリティ3は南東傾斜面上にある。アスペリティ1は南東傾斜, 北西傾斜両方の可能性がある。

13